

今市の水を守る市民の会

今市やその周辺地域において、市民や子どもたちが水に親しむための活動を行っています。

- 子どもたちの未来のために、清らかな水を残すための活動
- 地域の里山、里川に親しむための活動
- 自然環境に関わる活動
- その他、大谷川取水問題への対応等、会が必要とする活動
- 遺伝子組み換え、種苗法、プラスチック汚染などについても意見を通信に掲載



水にかかわる野外活動「ゆったりウォーク」

昨年10月は日光市南部の手岡（ちょうか）を歩きました。



岩崎観世音 駐車場に集合。参道を登って参拝後、地元にお住いの方からお話を伺いました。昔話の「子授けの卵」で知られる観音様です。馬を護る役目を持つ馬頭観音でもあります。第二次大戦中は徴用された農耕馬の無事帰還の祈願のため、近郷近在よりたくさんの方が馬と共に参拝に訪れていたそうです。「中国大陸に出征中のある人がある所でたまたま合流した他の部隊と休憩中、一匹の馬が寄ってきてその人に鼻を摺り寄せてきたのでよくよく見て撫でてやったら、かつて飼っていた馬だった。わずかな時間だったが、お前もお国の為に頑張れよと励まして別れた」というエピソードも披露してくださいました。日頃からいかに馬が大切に飼われてきたか、そして馬もまたその恩を忘れていなかったというお話は心に残りました。

刈り入れの済んだ田の傍をゆったり歩きながら参加者同士の会話が弾んだのは、快晴の秋空の奥に姿を誇る男体山があったからでしょう。参加者のお一人がせせらぎの間こえる場所で鳴いていた鳥を画眉鳥（ガビチョウ）と教えて下さったのも、ウォークの中身を濃くしてくれました。渡邊家庭園で休憩・武子川源流の一つを確認・人丸神社参拝・板橋川との合流地を経て出発地に戻る約5キロの行程でした。12時過ぎに解散した後は、奥の院に登る人、観世音そば「下の家」の手打ちそばに舌鼓を打つ人など、参加者それぞれの時間を楽しめたかと思っています。今回参加者は予定を越える21名でした。

川むしたんけん隊

2019年6月実施の「たんけん隊」 行川（日光市明神・見行地橋下）

当会が設立されてより20年以上が経ちました。

活動でこだわってきたのは旧今市市内の河川に棲む生き物を調べる

「川むしたんけん隊」です。環境省と国土交通省が作成した指標生物表をもとに、その地点での川の水質を生き物の種類によって判定しています。

同じ川でも上流・中流・下流では生き物の種類も数も異なります。

また、人間の暮らしがすぐ近くにあるかどうか、季節によっても生き物は変わってきます。そして川が違えばそこに棲む生き物も当然違ってくるので、実際に川に入っている生き物しらべには幼稚園児から大人まで幅広く体験できるというのが「川むしたんけん隊」の良さだと思います。

日時：6月1日 午前9時 気温：22.5℃ 水温：17.0℃

■ 環境省の指標生物による分類

水質階級Ⅰ（きれいな水）ヒラタカゲロウ、サワガニ、
オオヤマカワゲラ、ヘビトンボ

水質階級Ⅰ～Ⅱ（きれいな水）ヒゲナガカワトビケラ、
ニンギョウトビケラ、チラカゲロウ、フタオカゲロウ

水質階級Ⅱ（ややきれいな水）カワニナ、コオニヤンマ(ヤゴ)

水質階級Ⅲ（きたない水）、水質階級Ⅳ（とてもきたない水）該当生物なし

その他、見つかった生き物

ナベブタムシ、カワトンボ（ヤゴ）、サナエトンボ(ヤゴ)、
コヤマトンボ（ヤゴ）、 ヤンマ科トンボ（ヤゴ）、アオハダトンボ（成虫）、
アカハライモリ、トウキョウダルマガエル、ホトケドジョウ、アブラハヤ

■ 当日の結果からわかったこと 見行地橋下は生き物の種類・CODともに「きれいな水」でした。

加えて、栃木県の絶滅危惧種に指定されている「ホトケドジョウ」「アカハライモリ」も見つかったことは生態系が豊かに維持されているということ想像させてくれます。たくさんの目と手があったからこそ見つかったことでした。参加者皆さんに感謝します。

